

国営航空会社の グレートキャプテンからの 耳を疑う言葉

ウエザーニューズ社長 草開千仁
くさびらき ちひと



21世紀が始まり当社のテーマは航海気象に続くグローバル事業の展開、中でも航空気象のグローバル展開は私の大きなテーマであった。まず、韓国の航空会社でサービスを開始し、次のターゲットは中国、国営の航空会社であった。

最初は苦戦したが、運航管理の責任者を幕張のオペレーションセンターに招待し、24時間で運営する予報の現場を見ていただいたことで、風向きが大きく変わり、サービス導入に向けて本格的な検討が始まった。

彼らが重視したのは、国際線のさらなる安全性確保であった。ところが契約が間近という時に、思いもよらぬ事態が発生した。日中関係が悪化したのだ。国営企業であれば通常このタイミングで付き合うことは難しいのではないか、そんな考えが頭をよぎった。

そんな状況の中、先方の副社長から私と面談がしたいと連絡があった。ちなみに、副社長は世界中の飛行経験を持つグレートキャプテンでもあった。日中がらみのニュースを見るたびに、この面談は商談の断りではないかと不安が大きくなった。

面談当日、立派な椅子が隣り合わせて置かれた広い部屋に通され、緊張の面持ちで待っていると、副社長が現れた。簡単な挨拶の後、副社長が中国語で話を始めた。ある程度話をしたところで通訳をなさいと、担当営業に優しい笑みで促した。覚悟ができていた私の耳に飛び込んだ話はどうであった。

私はパイロットとして世界中をフライトした。空港に到着すると、各国のスタッフが誘導してくれるが、日本のスタッフは最もレベルが高く、親切心に溢れている。そんな日本企業であるウエザーニューズのサービスを利用する事に私は何の不安もなく大きな期待をしている。

私は思いもよらぬ契約の話に、耳を疑い、そして自然と涙が溢れ出た。日本の先人達が積み重ねてきた信頼と、グレートキャプテンの人間力に救われた。

航空会社との関係は現在も継続しており、当時の私達がそうであったように、のちに中国に進出した日本企業の後押しになっていることを期待したい。